

# 研究所構内の昆虫リスト (2004年10月から2005年12月)

中嶋 智子 水谷 文恵 白岩 秀昭 田辺 隆志

## Insect Species Verified in the Open Space of Our Institute (Kyoto City, Fushimi) from October, 2004 to December, 2005

Satoko NAKAJIMA, Yoshie MIZUTANI, Hideaki SHIRAIWA and Takashi TANABE

キーワード：昆虫相、昆虫種リスト

key words：Insect Fauna, Species-level Checklists, Biological Survey

### はじめに

我々は当研究所構内の空き地を利用して、都市部に身近な昆虫類を呼ぶためのビオトープづくりを試験的にを行い、昆虫相の推移から、都市におけるビオトープの存在について、その意義の考察を行うと同時に、ビオトープの生物学的評価手法についても検討している<sup>1-4)</sup>。

また、これら昆虫種の出現記録は、地域の「生物多様性」を考える際の基礎的資料になると考えている。

研究所構内の1999年3月から2004年9月までの昆虫類のリストは、既に報告した<sup>5-7)</sup>。今回は、その後の2004年10月から2005年12月の昆虫リストを記録した。

### 調査地域と調査方法

京都市伏見区に位置する当研究所構内約6,000m<sup>2</sup>の雑草地で調査を行った。採集方法などは先に報告したとおり<sup>5)</sup>で、採集は、季節や調査の実施方法などにより幾分恣意的となった。また、採集は原則、成虫とした。

昆虫類は、各種の図鑑・資料等で種まで同定できたものについてリストに掲げた。

### 結果

調査期間中の月別出現昆虫類リストを表1に示した。

昆虫類は、2004年は10目80科242種を、2005年には11目81科268種を確認した。その結果、当研究所で1999年3月から目撃・採集された昆虫種は、計11目111科428種となった。

この結果は、当研究所構内の昆虫相すべてを網羅するものではない。また、発見した結果を月ごとに示したが、その時期の採集・目撃は事実であるが、記載のない時期に出現していないということではない。しかし、6,000m<sup>2</sup>程度の雑草地で、一年に約200種以上をリストアップし、

およそ7年の調査で400種以上の種を確定することができた。

金沢城址の森(調査地域約4ha)では約1,400種<sup>10)</sup>、1980年代の横浜市の雑木林(1.5ha)では3年間の調査で約660種の昆虫<sup>11)</sup>が記録されている。また、京都府内の昆虫全種リストは約6,500種が確認されている<sup>12)</sup>。今回のリストに挙げた構内昆虫類の種数の多寡を論じるのは困難であるが、都市部に残された空き地であっても、今なお多くの昆虫類が利用し、その生息を可能としていることが明確になったと考える。

研究所構内で確認した昆虫類の種数を年次ごとに図1に示した。

年次ごとの構内の確認種数は増加の傾向を示した。これは、ここ数年、構内のチェックリストを充実させるために、特定の昆虫類について行った調査の影響が大きいと予想される。2003、2004年の訪花性アブ類やハチ類、2005年のアブラムシ類やアリ類の種数の大きな増加はこれに当たる。これらの調査でリストアップされた昆虫種

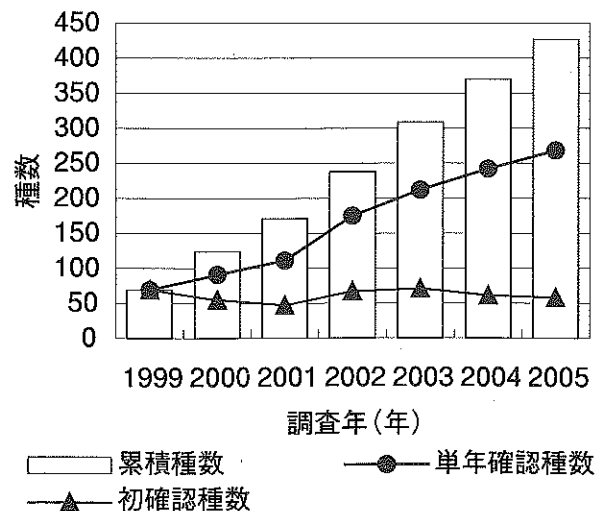


図1 研究所構内の確認種数の年次変化

(平成18年7月31日受理)











は、以前から構内に生息していた可能性もあるが、構内のビオトープ試行による環境変化とともに、新たに生息を定着させた種も含まれていると予想している。

例えば、ビオトープ化の試験運用の指標として頻度高く確認調査を実施しているチョウ・トンボ類では、ビオトープの試験運用を開始した1999年にはチョウ類5科12種、トンボ類3科6種であったのが、2005年12月末には、チョウ類8科38種、トンボ類7科25種を確認し、ここ数年も増える傾向を継続している。増加してきた種の中には、我々が研究所西方約200mの東高瀬川河畔で実施している生物相調査での未確認種<sup>2, 4, 13)</sup>も多く、周辺のより広い地域から構内を利用する種が飛来していることを示している。したがって、周辺環境に生育するこれら昆虫類の生息条件が新たに当研究所内に整ってきたことを示唆した。

また、一方で、これら昆虫リストの累積確認種数の直線的な増加傾向は、我々の調査で網羅できていない分類群がまだなお、多く残ることも示唆した。したがって、地域のチェックリストとしてその充実を更にめざしたいと考えている。

### まとめ

1. 2004年10月から2005年12月に京都市伏見区の当研究

所構内で目撃・採集した昆虫のリストを掲げた。

2. 2004年は10目80科242種、2005年は11目81科267種を確認した。
3. 1999年3月から当研究所構内で目撃・採集された昆虫種は、11目111科427種となった。

### 引用文献

- 1) 中嶋智子ほか：本誌、45、81 (2000)
- 2) 中嶋智子ほか：本誌、46、42 (2001)
- 3) 中嶋智子ほか：本誌、48、33 (2003)
- 4) 中嶋智子ほか：環境科学総合研究所年報、24、79 (2005)
- 5) 中嶋智子ほか：本誌、46、82 (2001)
- 6) 中嶋智子ほか：本誌、47、82 (2002)
- 7) 中嶋智子ほか：本誌、48、97 (2003)
- 8) 中嶋智子ほか：本誌、49、(2004)
- 9) 中嶋智子ほか：本誌、50、(2005)
- 10) 大串龍一：インセクトarium、35、48 (1998)
- 11) 菅野徹：横浜市公害研資料、44 (1982)
- 12) 京都府環境企画課、「京都府レッドデータブック2002」野生生物編、京都 (2002)
- 13) 中嶋智子ほか：本誌、51、(2006)